

(3) 告示別表第2による教科目

告示別表第2による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					備考
系列	教科目	授業形態	単位数	左記に対応して開講されている教科目	授業形態	単位数			
						必修	選択	計	
保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15 単 位 以 上	教育社会学	講義	2		2	左記から必修科目を含め、15単位以上修得すること。
				教職概論	講義	2		2	
幼児理解の理論と方法				講義	2		2		
保育の対象の理解に関する科目				教育心理学	講義	2		2	
				教育相談論	講義	2		2	
保育の内容・方法に関する科目				児童文学	講義		2	2	
				動物介在教育学	講義		2	2	
				動物・ペット介在教育演習	演習		1	1	
				こども文化教育演習	演習		1	1	
				子どもと健康Ⅰ	演習		1	1	
				子どもと健康Ⅱ	演習		1	1	
				子どもと人間関係Ⅰ	演習		1	1	
				子どもと人間関係Ⅱ	演習		1	1	
				子どもと環境Ⅰ	演習		1	1	
				子どもと環境Ⅱ	演習		1	1	
				子どもと言葉Ⅰ	演習		1	1	
				子どもと言葉Ⅱ	演習		1	1	
				子どもと音楽表現ⅡA	演習		1	1	
				子どもと音楽表現ⅡB	演習		1	1	
子どもと造形表現Ⅱ				演習		1	1		
保育実習	保育実習Ⅱ	実習	2	保育実習Ⅱ（保育所）	実習		2	2	保育実習Ⅱ・保育実習指導Ⅱ又は保育実習Ⅲ・保育実習指導Ⅲのいずれかを選択必修
	保育実習指導Ⅱ	演習	1	保育実習指導Ⅱ(保育所)	演習		1	1	
	保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅲ（施設）	実習		2	2	
	保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅲ（施設）	演習		1	1	
合計			18単位以上			10	23	33	

履修規則第23条第1項に基づく保育士養成課程の履修は、次表のとおりとする。
教育人間科学部 幼児保育学科

教科目の種別	単位数			必要単位数	備考
	必修	選択	計		
(1)教養科目	4	16	20	必修4単位含め11単位以上修得すること。	
(2)告示別表第1による教科目	56	0	56	必修56単位を全て修得すること。	
(3)告示別表第2による教科目	0	43	43	18単位以上修得すること。	
合計	60	59	119	必修60単位含め85単位以上修得すること。	

以上の「教科目の種別」ごとに、以下の教科目の中から必修60単位を含め85単位を修得すること。

(1) 教養科目

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					備考
系列	教科目	授業形態	単位数	左記に対応して開講されている教科目	授業形態	単位数			
						必修	選択	計	
教養科目	外国語、 体育以外の科目	不問	6 以上	日本国憲法	講義	2		2	左記から6単位以上を修得すること。
				哲学B	講義		2	2	
				倫理学B	講義		2	2	
				心理学A（心理学概論）	講義		2	2	
				心理学B	講義		2	2	
				歴史学A	講義		2	2	
	外国語	演習	2 以上	英語Ⅰ	演習		1	1	左記から2単位以上を修得すること。
				英語Ⅱ	演習		1	1	
				教養英語A	演習		1	1	
				教養英語B	演習		1	1	
	体育	講義	1	健康と生活	講義	2		2	左記から1単位以上を修得すること。
		実技	1	健康体育A	実技		1	1	
健康体育B				実技		1	1		
合計		10単位以上				4	16	20	
				20単位（ ≥10 ）					

(2) 告示別表第1による教科目

告示別表第1による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					備考	
系列	教科目	授業形態	単位数	左記に対応して開講されている教科目	授業形態	単位数				
						必修	選択	計		
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2		2		
	教育原理	講義	2	教育原理(幼)	講義	2		2		
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉	講義	2		2		
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2		2		
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2		2		
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	講義	2		2		
保育の対象の理解に関する科目	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2		2		
	保育の心理学	講義	2	保育の心理学	講義	2		2		
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2		2		
	子どもの理解と援助	演習	1	子どもの理解と援助	演習	1		1		
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	2		2		
保育の内容・方法に関する科目	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2		2		
	保育の計画と評価	講義	2	保育の計画と評価	講義	2		2		
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論Ⅰ	演習	1		1		
	保育内容演習	演習	5	保育内容(健康)	演習	2		2		
				保育内容(人間関係)	演習	2		2		
				保育内容(環境)	演習	2		2		
				保育内容(言葉)	演習	2		2		
	保育内容(表現)	演習	2	保育内容(表現)	演習	2		2		
	保育内容の理解と方法	演習	4	幼児と表現Ⅰ	演習	2		2		
				幼児と表現Ⅱ	演習	2		2		
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	2		2		
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	1		1		
	子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	1		1		
障害児保育	演習	2	特別支援教育概論Ⅰ(障害児保育を含む)	演習	1		1			
			特別支援教育概論Ⅱ(障害児保育を含む)	演習	1		1			
社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ	演習	1		1			
子育て支援	演習	1	子育て支援	演習	1		1			
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ(保育所)	実習	2		2		
				保育実習Ⅰ(施設)	実習	2		2		
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ(保育所)	演習	1		1		
				保育実習指導Ⅰ(施設)	演習	1		1		
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2		2		
合計		51単位					56	0	56	
				56 単位 (≥ 51 単位)						

(3) 告示別表第2による教科目

別表第2による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					備考
系列	教科目	授業形態	単位数	左記に対応して開講されている教科目	授業形態	単位数			
						必修	選択	計	
保育の本質・目的に関する科目				教職概論(幼)	講義		2	2	左記から15単位以上を修得すること。
				教育制度論(幼)	講義		2	2	
保育の対象の理解に関する科目				教育経営論(幼)	講義		2	2	
				幼児理解の理論と方法	講義		2	2	
保育の内容・方法に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15 単位 以上	教育相談の理論と方法	講義		2	2	
				社会・集団・家族心理学	講義		2	2	
				障害者・障害児心理学	講義		2	2	
				福祉心理学	講義		2	2	
				動物とこどもの生活	講義		2	2	
				保育内容総論Ⅱ	講義		2	2	
				幼児と健康	講義		2	2	
				幼児と人間関係	講義		2	2	
				幼児と環境	講義		2	2	
				幼児と言葉	講義		2	2	
				こどもと食育	講義		2	2	
				食育演習	演習		2	2	
				動物介在教育学演習	演習		1	1	
学校動物飼育技術	講義		2	2					
動物介在教育学	講義		2	2					
保育実習	保育実習Ⅱ	実習	2	保育実習Ⅱ	実習		2	2	保育実習Ⅱ・保育実習指導Ⅱ又は保育実習Ⅲ・保育実習指導Ⅲのいずれかを選択必修
	保育実習指導Ⅱ	演習	1	保育実習指導Ⅱ	演習		1	1	
	保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅲ	実習		2	2	
	保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅲ	演習		1	1	
合計			18単位以上			0	43	43	
				43単位(≥18単位)					

〔別記5〕

(アスレティックトレーナー養成のための課程の履修)

履修規則第24条に基づく、アスレティックトレーナー課程の履修は次表のとおりとする。

以下の科目は、すべて修得すること。

東京柔道整復学科

日本スポーツ協会指定科目		本学開講科目名		履修年次
科目内容		授業科目	単位	
共通科目	コーチングを理解しよう 1. コーチングとは 2. コーチに求められる役割 3. コーチに求められる知識とスキル 4. 対他者力を磨こう 5. 対自己力を磨こう 6. スポーツの意義と価値 7. スポーツの価値を守るスポーツ権 8. スポーツの自治-ガバナンスとコンプライアンス- 9. 暴力・ハラスメントの根絶 10. スポーツのインテグリティ 11. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 12. スポーツ仲裁 13. スポーツ倫理 14. 時代をリードするコーチング	コーチング論Ⅰ 体育・スポーツ経営学	2 2	1年後期 1年後期
	グッドコーチに求められる医・科学的知識 1. スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系 2. 体力のトレーニング 3. スキルトレーニング 4. 心のトレーニング 5. スポーツと栄養 6. スポーツに関連する医学的知識 7. アンチ・ドーピング	スポーツトレーニング入門 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学Ⅲ 生理学Ⅳ 運動学と行動 スポーツ心理学基礎 スポーツと食事 スポーツ医学概論	2 2 2 2 2 2 2 2 2	1年前期 1年前期 1年後期 2年前期 2年後期 2年前期 2年前期 2年後期 3年前期
	現場・環境に応じたコーチング 1. コーチング環境の特徴 2. ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング 3. スポーツ組織のマネジメント 4. 障がい者とスポーツ	コーチング論Ⅱ	2	2年前期
専門科目	JSPO-ATの役割 1) 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)とは 2) JSPO-ATのコンピテンシーに応じた業務と運営 3) JSPO-ATの活動と倫理および運営管理 4) JSPO-ATの安全と健康管理、セルフマネジメント 5) スポーツ医・科学チームとスタッフ 6) エビデンスに基づいた運営(EBP) 7) 関係者・対象者とのコミュニケーション	JSPO-ATの役割	2	1年前期
	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防 1) スポーツ現場における安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の概念 2) スポーツ現場におけるスポーツ外傷・障害・事故・疾病の実態 3) 各種要因が安全・健康管理に及ぼす影響 4) 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防におけるJSPO-ATの役割 5) 健康管理 6) スポーツ外傷・障害の予防 7) 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防のための各種評価と情報の活用 8) 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応	AT総合演習Ⅰ AT総合演習Ⅱ	2 4	3年前期 3年後期

専 門 科 目	コンディショニング 1) JSPO-ATの役割としてのコンディショニング 2) コンディショニングのプログラムデザイン 3) 競技特性の分析 4) トレーニング各論 5) コンディショニングに関するそのほかの情報	コンディショニングⅠ コンディショニングⅡ トレーニング科学演習	4 2 1	1年前期 2年後期 1年後期
	リコンディショニング 1) リコンディショニング総論 2) リコンディショニングで用いる代表的な手法 3) リコンディショニングにおける評価とプログラミング 4) リコンディショニングに必要な組織修復、治癒過程の知識 5) 機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング 6) 部位ごとの状態に応じたリコンディショニング 7) スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング	リコンディショニングⅠ リコンディショニングⅡ	4 2	2年前期 3年前期
	救急対応 1) スポーツ現場と救急対応 2) 救急対応の考え方 3) スポーツ現場における救急体制構築の留意点と計画 4) スポーツ現場での外傷、障害の評価とその手順 5) 外傷時の救急対応 6) 内科的疾患に対する救急対応 7) 各競技における救急体制の実際	救急医療 救急医療（実践）	2 2	2年後期 3年後期
	検査・測定と評価 1) JSPO-ATの行う検査・測定・評価とは 2) JSPO-ATの行う検査・測定・評価の実際	検査・測定と評価（実習含む）	2	3年前期
	人体の解剖と機能 1) 上肢・体幹 2) 骨盤・下肢	解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学Ⅲ 解剖学Ⅳ	2 2 2 2	1年前期 1年後期 2年前期 2年後期
	スポーツ科学 1) 運動生理学 2) バイオメカニクス 3) 体力・運動能力向上と外傷・障害予防に必要なスポーツ科学の応用知識 4) スポーツ科学の基礎知識の体力・運動能力向上と外傷・障害への活用	スポーツトレーニング入門 バイオメカニクス 運動学と行動 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学Ⅲ 生理学Ⅳ	2 2 2 2 2 2 2	1年前期 3年前期 2年前期 1年前期 1年後期 2年前期 2年後期
	スポーツ医学 1) 上肢・体幹・下肢の代表的なスポーツ外傷・障害 2) スポーツ現場でおこりうる留意すべき重篤な外傷・障害・疾病 3) スポーツ活動と関連する代表的な循環器疾患、呼吸器疾患、代謝性疾患、血液疾患等 4) スポーツ現場でおこりうる眼科、耳鼻科、歯科、皮膚科領域の代表的な外傷および疾病 5) 対象別（女性、高齢者、発育期、パラアスリート）によるスポーツ外傷・障害の特徴及び医学的留意事項	スポーツ医学概論 健康管理とスポーツ医学	2 2	3年前期 3年後期
	見学実習	アスレティックトレーナー見学実習	1	1年前期
	スポーツ現場実習 (ストレッチング、テーピング、応急措置等)	アスレティックトレーナー現場実習Ⅰ	1	1年後期
	検査・測定と評価実習、 アスレティックリハビリテーションプログラム作成実習	アスレティックトレーナー現場実習Ⅱ	1	2年前期
アスレティックリハビリテーション実習 (プログラム作成、実施等)	アスレティックトレーナー現場実習Ⅲ	1	2年後期	
総合実習	アスレティックトレーナー総合実習	2	3年通年	

東京理学療法学科

日本スポーツ協会指定科目		本学開講科目名		履修年次
科目内容		授業科目	単位	
共通科目	コーチングを理解しよう 1. コーチングとは 2. コーチに求められる役割 3. コーチに求められる知識とスキル 4. 对他者力を磨こう 5. 對自己力を磨こう 6. スポーツの意義と価値 7. スポーツの価値を守るスポーツ権 8. スポーツの自治ーガバナンスとコンプライアンスー 9. 暴力・ハラスメントの根絶 10. スポーツのインテグリティ 11. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 12. スポーツ仲裁 13. スポーツ倫理 14. 時代をリードするコーチング	コーチング論Ⅰ 体育・スポーツ経営学	2 2	1年後期 1年後期
	グッドコーチに求められる医・科学的知識 1. スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系 2. 体力のトレーニング 3. スキルトレーニング 4. 心のトレーニング 5. スポーツと栄養 6. スポーツに関連する医学的知識 7. アンチ・ドーピング	運動生理学 身体機能学実習 運動学Ⅱ スポーツ心理学基礎 スポーツと食事 スポーツ医学 スポーツトレーニング入門	2 1 2 2 2 2 2	1年前期 2年前期 1年後期 2年前期 2年後期 3年前期 1年前期
	現場・環境に応じたコーチング 1. コーチング環境の特徴 2. ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング 3. スポーツ組織のマネジメント 4. 障がい者とスポーツ	コーチング論Ⅱ	2	2年前期
専門科目	JSPO-ATの役割 1) 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)とは 2) JSPO-ATのコンピテンシーに応じた業務と運営 3) JSPO-ATの活動と倫理および運営管理 4) 5) スポーツ医・科学チームとスタッフ 6) エビデンスに基づいた運営 (EBP) 7) 関係者・対象者とのコミュニケーション	JSPO-ATの役割	2	1年前期
	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防 1) スポーツ現場における安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の概念 2) スポーツ現場におけるスポーツ外傷・障害・事故・疾病の実態 3) 各種要因が安全・健康管理に及ぼす影響 4) 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防におけるJSPO-ATの役割 5) 健康管理 6) スポーツ外傷・障害の予防 7) 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防のための各種評価と情報の活用 8) 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応	AT総合演習Ⅰ AT総合演習Ⅱ	2 4	3年前期 3年後期
	コンディショニング 1) JSPO-ATの役割としてのコンディショニング 2) コンディショニングのプログラムデザイン 3) 競技特性の分析 4) トレーニング各論 5) コンディショニングに関するそのほかの情報	コンディショニングⅠ コンディショニングⅡ トレーニング科学演習	4 2 1	1年前期 2年後期 1年後期

専 門 科 目	リコンディショニング 1) リコンディショニング総論 2) リコンディショニングで用いる代表的な手法 3) リコンディショニングにおける評価とプログラミング 4) リコンディショニングに必要な組織修復、治癒過程の知識 5) 機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング 6) 部位ごとの状態に応じたリコンディショニング 7) スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング	リコンディショニング I リコンディショニング II	4 2	2年前期 3年前期
	救急対応 1) スポーツ現場と救急対応 2) 救急対応の考え方 3) スポーツ現場における救急体制構築の留意点と計画 4) スポーツ現場での外傷、障害の評価とその手順 5) 外傷時の救急対応 6) 内科的疾患に対する救急対応 7) 各競技における救急体制の実際	救急医療 救急医療 (実践)	2 2	2年後期 3年後期
	検査・測定と評価 1) JSPO-ATの行う検査・測定・評価とは 2) JSPO-ATの行う検査・測定・評価の実際	検査・測定と評価 (実習含む)	2	3年前期
	人体の解剖と機能 1) 上肢・体幹 2) 骨盤・下肢	身体構造学 I 身体構造学 II 解剖学 III 解剖学 IV	2 2 2 2	1年前期 1年後期 2年前期 2年後期
	スポーツ科学 1) 運動生理学 2) バイオメカニクス 3) 体力・運動能力向上と外傷・障害予防に必要なスポーツ科学の応用知識 4) スポーツ科学の基礎知識の体力・運動能力向上と外傷・障害への活用	スポーツトレーニング入門 バイオメカニクス 身体機能学実習	2 2 1	1年前期 3年前期 2年前期
	スポーツ医学 1) 上肢・体幹・下肢の代表的なスポーツ外傷・障害 2) スポーツ現場で起こりうる留意すべき重篤な外傷・障害・疾病 3) スポーツ活動と関連する代表的な循環器疾患、呼吸器疾患、代謝性疾患、血液疾患等 4) スポーツ現場で起こりうる眼科、耳鼻科、歯科、皮膚科領域の代表的な外傷および疾病 5) 対象別 (女性、高齢者、発育期、パラアスリート) によるスポーツ外傷・障害の特徴及び医学的留意事項	整形外科学 健康管理とスポーツ医学	2 2	2年前期 3年後期
現 場 実 習	見学実習	アスレティックトレーナー見学実習	1	1年前期
	スポーツ現場実習 (ストレッチング、テーピング、応急措置等)	アスレティックトレーナー現場実習 I	1	1年後期
	検査・測定と評価実習、 アスレティックリハビリテーションプログラム作成実習	アスレティックトレーナー現場実習 II	1	2年前期
	アスレティックリハビリテーション実習 (プログラム作成、実施等)	アスレティックトレーナー現場実習 III	1	2年後期
	総合実習	アスレティックトレーナー総合実習	2	3年通年

理学療法学科

日本スポーツ協会指定科目		本学開講科目名		履修年次
科目内容		授業科目	単位	
共通科目	コーチングを理解しよう 1. コーチングとは 2. コーチに求められる役割 3. コーチに求められる知識とスキル 4. 对他者力を磨こう 5. 對自己力を磨こう 6. スポーツの意義と価値 7. スポーツの価値を守るスポーツ権 8. スポーツの自治ーガバナンスとコンプライアンスー 9. 暴力・ハラスメントの根絶 10. スポーツのインテグリティ 11. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 12. スポーツ仲裁 13. スポーツ倫理 14. 時代をリードするコーチング	コーチング論 I 体育・スポーツ経営学	2 2	1年前期 1年後期
	グッドコーチに求められる医・科学的知識 1. スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系 2. 体力のトレーニング 3. スキルトレーニング 4. 心のトレーニング 5. スポーツと栄養 6. スポーツに関連する医学的知識 7. アンチ・ドーピング	スポーツ心理学基礎 スポーツと食事 スポーツ障害と臨床医学 スポーツトレーナー入門	1 1 1 2	2年前期 2年前期 2年後期 1年後期
	現場・環境に応じたコーチング 1. コーチング環境の特徴 2. ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング 3. スポーツ組織のマネジメント 4. 障がい者とスポーツ	コーチング論 II	2	2年後期
専門科目	JSPO-ATの役割 1) 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)とは 2) JSPO-ATのコンピテンシーに応じた業務と運営 3) JSPO-ATの活動と倫理および運営管理 4) JSPO-ATの安全と健康管理、セルフマネジメント 5) スポーツ医・科学チームとスタッフ 6) エビデンスに基づいた運営 (EBP) 7) 関係者・対象者とのコミュニケーション	JSPO-ATの役割	2	1年前期
	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防 1) スポーツ現場における安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の概念 2) スポーツ現場におけるスポーツ外傷・障害・事故・疾病の実態 3) 各種要因が安全・健康管理に及ぼす影響 4) 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防におけるJSPO-ATの役割 5) 健康管理 6) スポーツ外傷・障害の予防 7) 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防のための各種評価と情報の活用 8) 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応	AT総合演習 I AT総合演習 II	2 4	2年前期 3年前期
	コンディショニング 1) JSPO-ATの役割としてのコンディショニング 2) コンディショニングのプログラムデザイン 3) 競技特性の分析 4) トレーニング各論 5) コンディショニングに関するそのほかの情報	コンディショニング I コンディショニング II	4 2	1年後期 3年前期

専門科目	リコンディショニング 1) リコンディショニング総論 2) リコンディショニングで用いる代表的な手法 3) リコンディショニングにおける評価とプログラミング 4) リコンディショニングに必要な組織修復、治癒過程の知識 5) 機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング 6) 部位ごとの状態に応じたリコンディショニング 7) スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング	リコンディショニング I リコンディショニング II	4 2	2年後期 3年前期
	救急対応 1) スポーツ現場と救急対応 2) 救急対応の考え方 3) スポーツ現場における救急体制構築の留意点と計画 4) スポーツ現場での外傷、障害の評価とその手順 5) 外傷時の救急対応 6) 内科的疾患に対する救急対応 7) 各競技における救急体制の実際	AT救急対応 AT救急対応（実践）	2 2	2年後期 3年前期
	検査・測定と評価 1) JSPO-ATの行う検査・測定・評価とは 2) JSPO-ATの行う検査・測定・評価の実際	検査・測定と評価（実習含む）	2	2年後期
	人体の解剖と機能 1) 上肢・体幹 2) 骨盤・下肢	人体の構造と機能 I 運動学 I	2 2	1年前期 1年通年
	スポーツ科学 1) 運動生理学 2) バイオメカニクス 3) 体力・運動能力向上と外傷・障害予防に必要なスポーツ科学の応用知識 4) スポーツ科学の基礎知識の体力・運動能力向上と外傷・障害への活用	スポーツ科学 バイオメカニクス 運動生理学	2 2 2	1年前期 2年後期 2年前期
	スポーツ医学 1) 上肢・体幹・下肢の代表的なスポーツ外傷・障害 2) スポーツ現場でおこりうる留意すべき重篤な外傷・障害・疾病 3) スポーツ活動と関連する代表的な循環器疾患、呼吸器疾患、代謝性疾患、血液疾患等 4) スポーツ現場でおこりうる眼科、耳鼻科、歯科、皮膚科領域の代表的な外傷および疾病 5) 対象別（女性、高齢者、発育期、パラアスリート）によるスポーツ外傷・障害の特徴及び医学的留意事項	スポーツ医学概論 健康管理とスポーツ医学	2 2	2年後期 3年前期
現場実習	見学実習	アスレティックトレーナー見学実習	1	1年前期
	スポーツ現場実習 (ストレッチング、テーピング、応急措置等)	アスレティックトレーナー現場実習 I	1	1年後期
	検査・測定と評価実習、 アスレティックリハビリテーションプログラム作成実習	アスレティックトレーナー現場実習 II	1	2年前期
	アスレティックリハビリテーション実習 (プログラム作成、実施等)	アスレティックトレーナー現場実習 III	1	2年後期
	総合実習	アスレティックトレーナー総合実習	2	3年後期

作業療法学科

日本スポーツ協会指定科目		本学開講科目名		履修年次
科目内容		授業科目	単位	
共通科目	コーチングを理解しよう 1. コーチングとは 2. コーチに求められる役割 3. コーチに求められる知識とスキル 4. 対他者力を磨こう 5. 対自己力を磨こう 6. スポーツの意義と価値 7. スポーツの価値を守るスポーツ権 8. スポーツの自治ーガバナンスとコンプライアンスー 9. 暴力・ハラスメントの根絶 10. スポーツのインテグリティ 11. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 12. スポーツ仲裁 13. スポーツ倫理 14. 時代をリードするコーチング	コーチング論 I 体育・スポーツ経営学	2 2	1年前期 1年後期
	グッドコーチに求められる医・科学的知識 1. スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系 2. 体力のトレーニング 3. スキルトレーニング 4. 心のトレーニング 5. スポーツと栄養 6. スポーツに関連する医学的知識 7. アンチ・ドーピング	スポーツ心理学基礎 スポーツと食事 スポーツ障害と臨床医学 スポーツトレーナー入門	1 1 1 2	2年前期 2年前期 2年後期 1年後期
	現場・環境に応じたコーチング 1. コーチング環境の特徴 2. ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング 3. スポーツ組織のマネジメント 4. 障がい者とスポーツ	コーチング論 II	2	2年後期
専門科目	JSPO-ATの役割 1) 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)とは 2) JSPO-ATのコンピテンシーに応じた業務と運営 3) JSPO-ATの活動と倫理および運営管理 4) JSPO-ATの安全と健康管理、セルフマネージメント 5) スポーツ医・科学チームとスタッフ 6) エビデンスに基づいた運営(EBP) 7) 関係者・対象者とのコミュニケーション	JSPO-ATの役割	2	1年前期
	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防 1) スポーツ現場における安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の概念 2) スポーツ現場におけるスポーツ外傷・障害・事故・疾病の実態 3) 各種要因が安全・健康管理に及ぼす影響 4) 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防におけるJSPO-ATの役割 5) 健康管理 6) スポーツ外傷・障害の予防 7) 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防のための各種評価と情報の活用 8) 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応	AT総合演習 I AT総合演習 II	2 4	2年前期 3年前期
	コンディショニング 1) JSPO-ATの役割としてのコンディショニング 2) コンディショニングのプログラムデザイン 3) 競技特性の分析 4) トレーニング各論 5) コンディショニングに関するそのほかの情報	コンディショニング I コンディショニング II	4 2	1年後期 3年前期

専門科目	リコンディショニング 1) リコンディショニング総論 2) リコンディショニングで用いる代表的な手法 3) リコンディショニングにおける評価とプログラミング 4) リコンディショニングに必要な組織修復、治癒過程の知識 5) 機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング 6) 部位ごとの状態に応じたリコンディショニング 7) スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング	リコンディショニング I リコンディショニング II	4 2	2年後期 3年前期
	救急対応 1) スポーツ現場と救急対応 2) 救急対応の考え方 3) スポーツ現場における救急体制構築の留意点と計画 4) スポーツ現場での外傷、障害の評価とその手順 5) 外傷時の救急対応 6) 内科的疾患に対する救急対応 7) 各競技における救急体制の実際	AT救急対応 AT救急対応（実践）	2 2	2年後期 3年前期
	検査・測定と評価 1) JSPO-ATの行う検査・測定・評価とは 2) JSPO-ATの行う検査・測定・評価の実際	検査・測定と評価（実習含む）	2	2年後期
	人体の解剖と機能 1) 上肢・体幹 2) 骨盤・下肢	人体の構造と機能 I 運動学 運動学実習	2 2 1	1年前期 1年後期 2年前期
	スポーツ科学 1) 運動生理学 2) バイオメカニクス 3) 体力・運動能力向上と外傷・障害予防に必要なスポーツ科学の応用知識 4) スポーツ科学の基礎知識の体力・運動能力向上と外傷・障害への活用	スポーツ科学 バイオメカニクス 運動生理学	2 2 2	1年前期 2年後期 2年前期
	スポーツ医学 1) 上肢・体幹・下肢の代表的なスポーツ外傷・障害 2) スポーツ現場でおこりうる留意すべき重篤な外傷・障害・疾病 3) スポーツ活動と関連する代表的な循環器疾患、呼吸器疾患、代謝性疾患、血液疾患等 4) スポーツ現場でおこりうる眼科、耳鼻科、歯科、皮膚科領域の代表的な外傷および疾病 5) 対象別（女性、高齢者、発育期、パラアスリート）によるスポーツ外傷・障害の特徴及び医学的留意事項	スポーツ医学概論 健康管理とスポーツ医学	2 2	2年後期 3年前期
現場実習	見学実習	アスレティックトレーナー見学実習	1	1年前期
	スポーツ現場実習 (ストレッチング、テーピング、応急措置等)	アスレティックトレーナー現場実習 I	1	1年後期
	検査・測定と評価実習、 アスレティックリハビリテーションプログラム作成実習	アスレティックトレーナー現場実習 II	1	2年前期
	アスレティックリハビリテーション実習 (プログラム作成、実施等)	アスレティックトレーナー現場実習 III	1	2年後期
	総合実習	アスレティックトレーナー総合実習	2	3年後期

柔道整復学科

日本スポーツ協会指定科目		本学開講科目名		履修年次
科目内容		授業科目	単位	
共通科目	コーチングを理解しよう 1. コーチングとは 2. コーチに求められる役割 3. コーチに求められる知識とスキル 4. 対他者力を磨こう 5. 対自己力を磨こう 6. スポーツの意義と価値 7. スポーツの価値を守るスポーツ権 8. スポーツの自治-ガバナンスとコンプライアンス- 9. 暴力・ハラスメントの根絶 10. スポーツのインテグリティ 11. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 12. スポーツ仲裁 13. スポーツ倫理 14. 時代をリードするコーチング	コーチング論 I 体育・スポーツ経営学	2 2	1年前期 1年後期
	グッドコーチに求められる医・科学的知識 1. スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系 2. 体力のトレーニング 3. スキルトレーニング 4. 心のトレーニング 5. スポーツと栄養 6. スポーツに関連する医学的知識 7. アンチ・ドーピング	スポーツ心理学基礎 スポーツと食事 スポーツ障害と臨床医学 スポーツトレーナー入門	1 1 1 2	2年前期 2年前期 2年後期 1年後期
	現場・環境に応じたコーチング 1. コーチング環境の特徴 2. ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング 3. スポーツ組織のマネジメント 4. 障がい者とスポーツ	コーチング論 II	2	2年後期
専門科目	JSPO-ATの役割 1) 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)とは 2) JSPO-ATのコンピテンシーに応じた業務と運営 3) JSPO-ATの活動と倫理および運営管理 4) JSPO-ATの安全と健康管理、セルフマネジメント 5) スポーツ医・科学チームとスタッフ 6) エビデンスに基づいた運営 (EBP) 7) 関係者・対象者とのコミュニケーション	JSPO-ATの役割	2	1年前期
	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防 1) スポーツ現場における安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の概念 2) スポーツ現場におけるスポーツ外傷・障害・事故・疾病の実態 3) 各種要因が安全・健康管理に及ぼす影響 4) 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防におけるJSPO-ATの役割 5) 健康管理 6) スポーツ外傷・障害の予防 7) 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防のための各種評価と情報の活用 8) 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応	AT総合演習 I AT総合演習 II	2 4	2年前期 3年前期
	コンディショニング 1) JSPO-ATの役割としてのコンディショニング 2) コンディショニングのプログラムデザイン 3) 競技特性の分析 4) トレーニング各論 5) コンディショニングに関するそのほかの情報	コンディショニング I コンディショニング II	4 2	1年後期 3年前期

専 門 科 目	リコンディショニング 1) リコンディショニング総論 2) リコンディショニングで用いる代表的な手法 3) リコンディショニングにおける評価とプログラミング 4) リコンディショニングに必要な組織修復、治癒過程の知識 5) 機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング 6) 部位ごとの状態に応じたリコンディショニング 7) スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング	リコンディショニング I リコンディショニング II	4 2	2年後期 3年前期
	救急対応 1) スポーツ現場と救急対応 2) 救急対応の考え方 3) スポーツ現場における救急体制構築の留意点と計画 4) スポーツ現場での外傷、障害の評価とその手順 5) 外傷時の救急対応 6) 内科的疾患に対する救急対応 7) 各競技における救急体制の実際	AT救急対応 AT救急対応（実践）	2 2	2年後期 3年前期
	検査・測定と評価 1) JSPO-ATの行う検査・測定・評価とは 2) JSPO-ATの行う検査・測定・評価の実際	検査・測定と評価（実習含む）	2	2年後期
	人体の解剖と機能 1) 上肢・体幹 2) 骨盤・下肢	解剖学 I 解剖学 II 運動学 I 運動学 II	2 2 1 1	1年前期 1年後期 2年前期 2年後期
	スポーツ科学 1) 運動生理学 2) バイオメカニクス 3) 体力・運動能力向上と外傷・障害予防に必要なスポーツ科学の応用知識 4) スポーツ科学の基礎知識の体力・運動能力向上と外傷・障害への活用	スポーツ科学 バイオメカニクス ヒトの運動と呼吸の生理 運動学 I 運動学 II	2 2 2 1 1	1年前期 2年後期 2年前期 2年前期 2年後期
	スポーツ医学 1) 上肢・体幹・下肢の代表的なスポーツ外傷・障害 2) スポーツ現場でおこりうる留意すべき重篤な外傷・障害・疾病 3) スポーツ活動と関連する代表的な循環器疾患、呼吸器疾患、代謝性疾患、血液疾患等 4) スポーツ現場でおこりうる眼科、耳鼻科、歯科、皮膚科領域の代表的な外傷および疾病 5) 対象別（女性、高齢者、発育期、パラアスリート）によるスポーツ外傷・障害の特徴及び医学的留意事項	スポーツ医学概論 健康管理とスポーツ医学	2 2	2年後期 3年前期
現 場 実 習	見学実習	アスレティックトレーナー見学実習	1	1年前期
	スポーツ現場実習 (ストレッチング、テーピング、応急措置等)	アスレティックトレーナー現場実習 I	1	1年後期
	検査・測定と評価実習、 アスレティックリハビリテーションプログラム作成実習	アスレティックトレーナー現場実習 II	1	2年前期
	アスレティックリハビリテーション実習 (プログラム作成、実施等)	アスレティックトレーナー現場実習 III	1	2年後期
	総合実習	アスレティックトレーナー総合実習	2	3年後期

〔別記6〕

(トレーニング指導者養成のための課程の履修)

履修規則第25条に基づく、トレーニング指導者課程の履修は、次表のとおりとする。

日本トレーニング指導者協会が定めるカリキュラムの各科目名に対応する本学開講科目をすべて履修すること。ただし、対応する本学開講科目名が複数ある場合は、いずれか1科目以上を修得すること。ただし() かつこで囲まれた科目は、複数科目の履修を必須とする。

東京柔道整復学科

1 一般科目

日本トレーニング指導者協会が定めるカリキュラム		対応する本学開講科目名
領域	科目名	
A. 体力トレーニング総論	体力トレーニング総論	スポーツトレーニング入門
B. 機能解剖	機能解剖(1)上肢	3科目全て(解剖学Ⅰ,解剖学Ⅱ、 運動学と行動)
	機能解剖(2)脊柱と胸部	
	機能解剖(3)骨盤と下肢	
C. バイオメカニクス	バイオメカニクス(1)基礎理論	バイオメカニクス
	バイオメカニクス(2)スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス	
D. 運動生理学	運動生理学(1)呼吸循環器系・エネルギー代謝と運動	2科目全て(生理学Ⅱ,生理学Ⅲ)
	運動生理学(2)骨格筋系・神経系・内分泌系と運動	2科目全て(生理学Ⅰ,生理学Ⅱ)
E. 運動と栄養	運動と栄養(1) 運動と栄養の基礎理論	スポーツと食事
	運動と栄養(2) 対象と目的に応じた栄養摂取	
F. 運動と心理	運動と心理(1) 運動と心理の基礎理論	スポーツ心理学基礎
	運動と心理(2) 運動学習と指導法	
G. 運動と医学	運動と医学(1)生活習慣病	2科目全て(一般臨床医学Ⅰ,一般臨床医学Ⅱ)
	運動と医学(2)スポーツ傷害	スポーツ医学概論
	運動と医学(3)救命救急法	救急医療 救急医療(実践) 基礎整復学Ⅴ

2 専門科目

A. トレーニング指導者論	トレーニング指導者の役割	コーチング論Ⅰ
	トレーニング指導者の実務	コンディショニングⅠ
B. 測定と評価	トレーニング効果の測定と評価	スポーツトレーニング入門
	測定データの分析とデータの活用法	コンディショニングⅠ
C. トレーニング理論とプログラム	長期的トレーニング計画	スポーツトレーニング入門
	レジスタンストレーニング	コンディショニングⅠ
	パワートレーニング	
	持久力トレーニング	
	スピードトレーニング	
	柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウン、リカバリー	
	特別な対象のためのトレーニングとプログラム	
生活習慣病、傷害の受傷から復帰までのトレーニングプログラム		

D. トレーニングの実技と指導法 ※実習を伴う内容であることが必要	レジスタンストレーニングの実技と指導法	コンディショニング I
	パワートレーニングの実技と指導法	
	持久力トレーニングの実技と指導法	
	スピードトレーニングの実技と指導法	
	ウォームアップと柔軟性トレーニング、その他のトレーニング実技と指導法	

理学療法学科

1 一般科目

日本トレーニング指導者協会が定めるカリキュラム		対応する本学開講科目名
領域	科目名	
A. 体力トレーニング総論	体力トレーニング総論	スポーツトレーナー入門
B. 機能解剖	機能解剖(1)上肢	2科目全て（人体の構造と機能 I、運動学 I）
	機能解剖(2)脊柱と胸郭	
	機能解剖(3)骨盤と下肢	
C. バイオメカニクス	バイオメカニクス(1)基礎理論	バイオメカニクス
	バイオメカニクス(2)スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス	
D. 運動生理学	運動生理学(1)呼吸循環器系・エネルギー代謝と運動	運動生理学
	運動生理学(2)骨格筋系・神経系・内分泌系と運動	
E. 運動と栄養	運動と栄養(1) 運動と栄養の基礎理論	スポーツと食事
	運動と栄養(2) 対象と目的に応じた栄養摂取	
F. 運動と心理	運動と心理(1) 運動と心理の基礎理論	スポーツ心理学基礎
	運動と心理(2) 運動学習と指導法	
G. 運動と医学	運動と医学(1)生活習慣病	スポーツ障害と臨床医学
	運動と医学(2)スポーツ傷害	スポーツ障害と臨床医学
	運動と医学(3)救命救急法	AT救急対応

2 専門科目

A. トレーニング指導者論	トレーニング指導者の役割	スポーツトレーナー入門
	トレーニング指導者の実務	2科目全て（コーチング論 I、スポーツトレーナー入門）
B. 測定と評価	トレーニング効果の測定と評価	検査・測定と評価（実習含む）
	測定データの分析とデータの活用法	
C. トレーニング理論とプログラム	長期的トレーニング計画	コンディショニング I
	レジスタンストレーニング	
	パワートレーニング	
	持久力トレーニング	
	スピードトレーニング	
	柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウン、リカバリー	
	特別な対象のためのトレーニングとプログラム	2科目全て（コンディショニング I、コンディショニング II）
生活習慣病、傷害の受傷から復帰までのトレーニングプログラム		

D. トレーニングの実技と指導法 ※実習を伴う内容であることが必要	レジスタンストレーニングの実技と指導法	コンディショニング I
	パワートレーニングの実技と指導法	
	持久力トレーニングの実技と指導法	
	スピードトレーニングの実技と指導法	
	ウォームアップと柔軟性トレーニング、その他のトレーニング実技と指導法	

注記 帝京科学大学履修規則別表（理学療法学科）の授業科目：人体の構造と機能 I、運動学 I、運動生理学、スポーツ障害と臨床医学

作業療法学科

1 一般科目

日本トレーニング指導者協会が定めるカリキュラム		対応する本学開講科目名
領域	科目名	
A. 体力トレーニング総論	体力トレーニング総論	スポーツトレーナー入門
B. 機能解剖	機能解剖(1)上肢	3科目全て（人体の構造と機能 I、運動学、運動学実習）
	機能解剖(2)脊柱と胸郭	
	機能解剖(3)骨盤と下肢	
C. バイオメカニクス	バイオメカニクス(1)基礎理論	バイオメカニクス
	バイオメカニクス(2)スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス	
D. 運動生理学	運動生理学(1)呼吸循環器系・エネルギー代謝と運動	運動生理学
	運動生理学(2)骨格筋系・神経系・内分泌系と運動	
E. 運動と栄養	運動と栄養(1) 運動と栄養の基礎理論	スポーツと食事
	運動と栄養(2) 対象と目的に応じた栄養摂取	
F. 運動と心理	運動と心理(1) 運動と心理の基礎理論	スポーツ心理学基礎
	運動と心理(2) 運動学習と指導法	
G. 運動と医学	運動と医学(1)生活習慣病	スポーツ障害と臨床医学
	運動と医学(2)スポーツ傷害	スポーツ障害と臨床医学
	運動と医学(3)救命救急法	AT救急対応

2 専門科目

A. トレーニング指導者論	トレーニング指導者の役割	スポーツトレーナー入門
	トレーニング指導者の実務	2科目全て（コーチング論 I、スポーツトレーナー入門）
B. 測定と評価	トレーニング効果の測定と評価	検査・測定と評価（実習含む）
	測定データの分析とデータの活用法	
C. トレーニング理論とプログラム	長期的トレーニング計画	コンディショニング I
	レジスタンストレーニング	
	パワートレーニング	
	持久力トレーニング	
	スピードトレーニング	
	柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウン、リカバリー	
	特別な対象のためのトレーニングとプログラム	2科目全て（コンディショニング I、コンディショニング II）
生活習慣病、傷害の受傷から復帰までのトレーニングプログラム		

D. トレーニングの実技と指導法 ※実習を伴う内容であることが必要	レジスタンストレーニングの実技と指導法	コンディショニング I
	パワートレーニングの実技と指導法	
	持久力トレーニングの実技と指導法	
	スピードトレーニングの実技と指導法	
	ウォームアップと柔軟性トレーニング、その他のトレーニング実技と指導法	

注記 帝京科学大学履修規則別表（作業療法学科）の授業科目：人体の構造と機能 I、運動学、運動学実習、スポーツ障害と臨床医学

柔道整復学科

1 一般科目

日本トレーニング指導者協会が定めるカリキュラム		対応する本学開講科目名
領域	科目名	
A. 体力トレーニング総論	体力トレーニング総論	スポーツトレーナー入門
B. 機能解剖	機能解剖(1)上肢	3科目全て(解剖学 I、解剖学 II、運動学 I)
	機能解剖(2)脊柱と胸郭	
	機能解剖(3)骨盤と下肢	
C. バイオメカニクス	バイオメカニクス(1)基礎理論	バイオメカニクス
	バイオメカニクス(2)スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス	
D. 運動生理学	運動生理学(1)呼吸循環器系・エネルギー代謝と運動	ヒトの運動と呼吸の生理
	運動生理学(2)骨格筋系・神経系・内分泌系と運動	2科目全て(ヒトの運動と呼吸の生理、運動学 I)
E. 運動と栄養	運動と栄養(1)運動と栄養の基礎理論	スポーツと食事
	運動と栄養(2)対象と目的に応じた栄養摂取	
F. 運動と心理	運動と心理(1)運動と心理の基礎理論	スポーツ心理学基礎
	運動と心理(2)運動学習と指導法	
G. 運動と医学	運動と医学(1)生活習慣病	一般臨床医学 I
	運動と医学(2)スポーツ傷害	整形外科学基礎
	運動と医学(3)救命救急法	救急医療

2 専門科目

A. トレーニング指導者論	トレーニング指導者の役割	スポーツトレーナー入門
	トレーニング指導者の実務	2科目全て(コーチング論 I、スポーツトレーナー入門)
B. 測定と評価	トレーニング効果の測定と評価	検査・測定と評価 (実習含む)
	測定データの分析とデータの活用法	
C. トレーニング理論とプログラム	長期的トレーニング計画	コンディショニング I
	レジスタンストレーニング	
	パワートレーニング	
	持久力トレーニング	
	スピードトレーニング	コンディショニング I
	柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウン、リカバリー	
	特別な対象のためのトレーニングとプログラム	
	生活習慣病、傷害の受傷から復帰までの トレーニングプログラム	

D. トレーニングの実技と指導法 ※実習を伴う内容であることが必要	レジスタンストレーニングの実技と指導法	コンディショニング I
	パワートレーニングの実技と指導法	
	持久力トレーニングの実技と指導法	
	スピードトレーニングの実技と指導法	
	ウォームアップと柔軟性トレーニング、その他のトレーニング実技と指導法	

注記 帝京科学大学履修規則別表（柔道整復学科）の授業科目：スポーツトレーナー入門、解剖学 I、解剖学 II、運動学 I、ヒトの運動と呼吸の生理、一般臨床医学 I、整形外科学基礎、救急医療

〔別記7〕

履修規則第26条に基づく社会福祉士国家試験の受験資格を取得しようとする者の履修は、次表のとおりとする。

社会福祉士介護福祉士学校規則別表 第1に定める科目		左記に対応する本学の開設授業科目の状況 (1単位の計算方法:講義15時間、演習30時間、実習45時間)					備考
社会福祉士に関する科目を定める省令第1条に定める教科目	別表1に定める時間数	授業科目の名称	授業形態	単位数			
				必修	選択	計	
医学概論	30	医学概論	講義	2		2	
心理学と心理的支援	30	心理学	講義	2		2	
社会学と社会システム	30	社会学	講義	2		2	
社会福祉の原理と政策	60	社会福祉概論Ⅰ	講義	2		2	
		社会福祉概論Ⅱ	講義	2		2	
社会保障	60	社会保障論Ⅰ	講義	2		2	
		社会保障論Ⅱ	講義	2		2	
権利擁護を支える法制度	30	権利擁護を支える法制度	講義	2		2	
地域福祉と包括的支援体制	60	地域福祉論Ⅰ	講義	2		2	
		地域福祉論Ⅱ	講義	2		2	
高齢者福祉	30	高齢者福祉論	講義	2		2	
障害者福祉	30	障害者福祉論	講義	2		2	
児童・家庭福祉	30	児童・家庭福祉論	講義	2		2	
貧困に対する支援	30	公的扶助論	講義	2		2	
保健医療と福祉	30	医療福祉論	講義	2		2	
刑事司法と福祉	30	司法福祉論	講義	2		2	
ソーシャルワークの基盤と専門職	30	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義	2		2	
ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	30	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	講義	2		2	
ソーシャルワークの理論と方法	60	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	講義	2		2	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	講義	2		2	
ソーシャルワークの理論と方法(専門)	60	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	講義	2		2	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	講義	2		2	
社会福祉調査の基礎	30	社会福祉調査	講義	2		2	
福祉サービスの組織と経営	30	福祉サービスの組織と経営	講義	2		2	
ソーシャルワーク演習	30	ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習	1		1	
ソーシャルワーク演習(専門)	120	ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習	1		1	
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	演習	1		1	
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	演習	1		1	
		ソーシャルワーク演習Ⅴ	演習	1		1	
ソーシャルワーク実習指導	90	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	演習	1		1	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	演習	1		1	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	演習	1		1	
ソーシャルワーク実習	240	ソーシャルワーク実習	実習	5		5	*注1
合計	1200			61	0	61	

「ソーシャルワーク実習」の履修要件を次のように定める。

- (1) 「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」の履修年次までに開講している国家試験受験資格指定科目の単位数を、すべて取得していること。
- (2) 「ソーシャルワーク実習」履修年次の前期に開講しているすべての国家試験受験資格指定科目について、履修中であること

注1: ソーシャルワーク実習の出席時間数が学校指定規則に定める時間数の5分の4に満たない者については、当該科目の履修の認定をしない。

- (3) 介護福祉士養成課程における介護実習を履修している者は実習時間を60時間分免除することができる。

〔別記8〕

履修規則第27条に基づく介護福祉士国家試験の受験資格を取得しようとする者の履修は、次表のとおりとする。

介護福祉士養成の目標（指針 別表1より）								
社会福祉士介護福祉士学校規則別表第4に定める領域及び教育内容			左記に対応する本学の開設授業科目の状況 (1単位の計算方法：講義15時間、演習30時間、実習45時間)					
領域	教育内容	時間数	授業科目の名称	授業形態	単位数			備考
					必修	選択	計	
人間と社会	人間の尊厳と自立	30	社会福祉概論Ⅰ	講義	2		2	
	人間関係とコミュニケーション	60	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	講義	2		2	
			福祉サービスの組織と経営	講義	2		2	
	社会の理解	90	社会保障論Ⅰ	講義	2		2	
			高齢者福祉論	講義	2		2	
			社会福祉概論Ⅱ	講義	2		2	
	人間と社会に関する選択科目	60	倫理学B	講義	2		2	
			多文化共生と福祉Ⅰ	講義	2		2	
介護	介護の基本	180	介護の基本Ⅰ	講義	2		2	
			生活環境論	講義	2		2	
			介護の基本Ⅱ	講義	2		2	
			介護の基本Ⅲ	講義	2		2	
			介護の基本Ⅳ	講義	2		2	
			介護の基本Ⅴ	講義	2		2	
	コミュニケーション技術	60	コミュニケーション技術Ⅰ	演習	1		1	
			コミュニケーション技術Ⅱ	演習	1		1	
	生活支援技術	300	生活支援技術Ⅰ（生活・睡眠）	演習	1		1	
			生活支援技術Ⅱ（食事・家事）	演習	1		1	
			生活支援技術Ⅲ（移動）	演習	1		1	
			生活支援技術Ⅳ（入浴・清潔）	演習	1		1	
			生活支援技術Ⅴ（身じたく・排泄）	演習	1		1	
			生活支援技術Ⅵ（環境・福祉用具）	演習	1		1	
			生活支援技術Ⅶ（アクティビティ）	演習	1		1	
			生活支援技術Ⅷ（栄養・調理）	演習	1		1	
			生活支援技術Ⅸ（終末期）	演習	1		1	
			生活支援技術Ⅹ（総合）	演習	1		1	
	介護過程	150	介護過程Ⅰ	演習	1		1	
			介護過程Ⅱ	演習	1		1	
			介護過程Ⅲ	演習	1		1	
介護過程Ⅳ			演習	1		1		
介護過程Ⅴ			演習	1		1		
介護総合演習	120	介護総合演習Ⅰ	演習	1		1		
		介護総合演習Ⅱ	演習	1		1		
		介護総合演習Ⅲ	演習	1		1		
		介護総合演習Ⅳ	演習	1		1		

	介護実習	450	介護実習Ⅰ（地域実習）	実習	2		2	*注1
			介護実習Ⅱ（展開実習）	実習	3		3	*注1
			介護実習Ⅲ（総合実習）	実習	4		4	*注1
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	60	人間発達学	講義	2		2	
			老年期の疾病と生活	講義	2		2	
	認知症の理解	60	認知症の理解Ⅰ	講義	2		2	
			認知症の理解Ⅱ	講義	2		2	
	障害の理解	60	障害者福祉論	講義	2		2	
			障害の理解	講義	2		2	
	こころとからだのしくみ	120	医学概論	講義	2		2	
			心理学	講義	2		2	
			こころとからだのしくみⅠ	講義	2		2	
			こころとからだのしくみⅡ	講義	2		2	
医療的ケア	医療的ケア	50	医療的ケアⅠ	講義	2		2	
			医療的ケアⅡ	講義	2		2	
			医療的ケアⅢ	講義	1		1	
			医療的ケアⅣ（演習）	演習	1		1	
合計	1850時間+医療的ケア演習				84	0	84	

「介護実習Ⅰ～Ⅲ」の履修要件は別途定める。

注1：介護実習Ⅰ～Ⅲの各科目の出席時間数が学校指定規則に定める時間数の5分の4に満たない者については、当該科目の履修の認定をしない。

〔別記9〕

履修規則第28条に基づく精神保健福祉士国家試験の受験資格を取得しようとする者の履修は、次表のとおりとする。

精神保健福祉士法第7条第1項に定める 指定科目		左記に対応する本学の開設授業科目の状況 (1単位の計算方法：講義15時間、演習30時間、実習45時間)					
指定科目	時間数	授業科目の名称	授業 形態	単位数			備考 (時間 数)
				必修	選択	計	
医学概論	30	医学概論	講義	2		2	
心理学と心理的支援	30	心理学	講義	2		2	
社会学と社会システム	30	社会学	講義	2		2	
社会福祉の原理と政策	60	社会福祉概論Ⅰ	講義	2		2	
		社会福祉概論Ⅱ	講義	2		2	
地域福祉と包括的支援体制	60	地域福祉論Ⅰ	講義	2		2	
		地域福祉論Ⅱ	講義	2		2	
社会保障	60	社会保障論Ⅰ	講義	2		2	
		社会保障論Ⅱ	講義	2		2	
障害者福祉	30	障害者福祉論	講義	2		2	
権利擁護を支える法制度	30	権利擁護を支える法制度	講義	2		2	
刑事司法と福祉	30	司法福祉論	講義	2		2	
社会福祉調査の基礎	30	社会福祉調査	講義	2		2	
精神医学と精神治療	60	精神医学Ⅰ	講義	2		2	
		精神医学Ⅱ	講義	2		2	
現代の精神保健の課題と支援	60	精神保健Ⅰ	講義	2		2	
		精神保健Ⅱ	講義	2		2	
ソーシャルワークの基盤と専門職	30	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義	2		2	
精神保健福祉の原理	60	精神保健福祉の原理Ⅰ	講義	2		2	
		精神保健福祉の原理Ⅱ	講義	2		2	
ソーシャルワークの理論と方法	60	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	講義	2		2	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	講義	2		2	
ソーシャルワークの理論と方法(専門)	60	ソーシャルワークの理論と方法(専門)A	講義	2		2	
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)B	講義	2		2	
精神障害リハビリテーション論	30	精神障害リハビリテーション論	講義	2		2	
精神保健福祉制度論	30	精神保健福祉制度論	講義	2		2	
ソーシャルワーク演習	30	ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習	1		1	
ソーシャルワーク演習(専門)	90	ソーシャルワーク演習(専門)A	演習	1		1	
		ソーシャルワーク演習(専門)B	演習	1		1	
		ソーシャルワーク演習(専門)C	演習	1		1	
ソーシャルワーク実習指導	90	ソーシャルワーク実習指導A	演習	1		1	
		ソーシャルワーク実習指導B	演習	1		1	
		ソーシャルワーク実習指導C	演習	1		1	

ソーシャルワーク実習 ※注1	210	ソーシャルワーク実習A	実習	2		2	
		ソーシャルワーク実習B	実習	2		2	
合 計	1200			63		63	

・ソーシャルワーク実習Aは90時間以上で2単位、ソーシャルワーク実習Bは90時間以上で2単位とする。なお実習時間は、ソーシャルワーク実習A、ソーシャルワーク実習Bを併せて、計210時間以上としなければならない。

「ソーシャルワーク実習」履修要件を次のように定める。

- (1) 「ソーシャルワーク実習A」は、「ソーシャルワーク実習指導A」の履修年次（前期）までに開講している国家試験受験資格指定科目（精神保健福祉士の専門科目及び社会福祉士の共通科目）の単位を、すべて取得していること
- (2) 「ソーシャルワーク実習B」は、「ソーシャルワーク実習指導B」の履修年次までに「ソーシャルワーク実習A」の単位を修得し、あわせて開講している国家試験受験資格指定科目（精神保健福祉士の専門科目及び社会福祉士の共通科目）について、履修中であること
- (3) 社会福祉士国家試験受験資格の取得を希望する場合は、「ソーシャルワーク実習」の単位を修得した上で、「ソーシャルワーク実習A」及び「ソーシャルワーク実習B」を履修するものとする

注1：ソーシャルワーク実習A及びBの各科目の出席時間数が学校指定規則に定める時間数の5分の4に満たない者については、当該科目の履修の認定をしない

〔別記10〕

履修規則第29条に基づく保健師国家試験受験資格を取得しようとする者の履修は、志願者の内から選抜された20名以内とし、次表のとおりとする。

保健師助産師看護師学校養成所指定規則 第二条第三項 別表一に定める科目			左記に対応する本学の開設授業科目の状況			
指定科目	単位数	授業科目の名称	単位数			
			必修	選択	計	
公衆衛生看護学	2	地域生活支援論	1		1	
		公衆衛生看護学概論	1		1	
	個人・家族・集団・組織の支援 公衆衛生看護活動展開論 公衆衛生看護管理論	14	公衆衛生看護方法論Ⅰ-1 (成人・老年・産業)	1		1
			公衆衛生看護方法論Ⅰ-2 (母子・精神・難病)	1		1
			公衆衛生看護方法論Ⅱ (保健指導、健康教育)	1	☆	1
			公衆衛生看護方法論Ⅲ (地域診断、健康危機管理)	2	☆	2
			公衆衛生看護学演習Ⅰ (地域のアセスメント)	2	☆	2
			公衆衛生看護学演習Ⅱ (健診と家庭訪問)	2	☆	2
			在宅看護学概論	1		1
			チーム医療実践論	1		1
			保健セミナー	1	☆	1
			看護研究Ⅰ(研究方法論)	1		1
			看護研究Ⅱ(研究計画)	1		1
疫学	2	疫学	2	※	2	
保健統計学	2	公衆衛生学	2		2	
		保健統計学	2		2	
保健医療福祉行政論	3	日本国憲法	2	※	2	
		保健医療福祉行政論Ⅰ (行政の仕組み)	2		2	
		保健医療福祉行政論Ⅱ (保健計画立案)	1	☆	1	
臨地実習	5	公衆衛生看護学実習 保健所・保健センターにおける 実習 産業及び学校における実習	5	☆	5	
総計		28	32		32	

※は、選択科目であるが、保健師教育課程希望者は必修である。

☆は、保健師教育課程履修者のみの限定科目である。

履修方法

- ・保健師教育課程履修者は、20名以内とする。
- ・希望者は、帝京科学大学履修規則を参照し、必ず必要な科目を履修すること。

- ・保健師国家試験受験資格希望者は、大学卒業の要件となる所定単位に加えて、保健師教育課程を履修する必要があり、看護師国家試験受験に必要な科目に加え、日本国憲法（2単位）、疫学（2単位）、公衆衛生看護方法論Ⅱ（保健指導、健康教育）（1単位）、公衆衛生看護方法論Ⅲ（地域診断、健康危機管理）（2単位）、公衆衛生看護学演習Ⅰ（地域のアセスメント）（2単位）、公衆衛生看護学演習Ⅱ（健診と家庭訪問）（2単位）、公衆衛生看護学実習（5単位）、保健医療福祉行政論Ⅱ（保健計画立案）（1単位）、保健セミナー（1単位）を修得することが要件となる。
- ・保健師教育課程の選考は、2年次後期に実施する。
- ・出願要件として、
 - 1) 共通科目
必修科目15単位、日本国憲法を含めて20単位以上単位修得済み
 - 2) 専門基礎科目
2年後期までの必修科目ならびに疫学を単位修得済み
 - 3) 専門科目
2年後期までの必修科目をすべて修得済み
- ・選考方法は、保健師の指定規則で定められた科目のうち、2年次終了時までまでに修得した科目（「日本国憲法」「公衆衛生学」「保健統計学」「疫学」「地域生活支援論」「公衆衛生看護学概論」「在宅看護学概論」「公衆衛生看護方法論Ⅰ-1（成人・老年・産業）」「公衆衛生看護方法論Ⅰ-2（母子・精神・難病）」「チーム医療実践論」）ならびに「在宅看護援助論Ⅰ（日常生活ケア）」「基礎看護学実習Ⅰ（対象の理解）」「基礎看護学実習Ⅱ（基盤：病院）」「老年看護学実習Ⅰ（基盤：高齢者施設）」「在宅看護学実習Ⅰ（基盤：地域包括支援センター）」の評価点、GPA、面接等によって総合的に選考する。

〔別記11〕

履修規則第30条に基づく臨床工学技士国家試験の受験資格を取得しようとする者の履修は、次表のとおりとする。

指定科目	相当する授業科目	単位数
解剖学	ヒトの解剖生理	2
	解剖学	2
生理学	生理学	2
生化学	生化学Ⅰ	2
	生化学Ⅱ	2
医学概論	医学概論	1
公衆衛生学	公衆衛生学	1
病理学	病理学	2
薬理学	薬理学	2
免疫学	免疫学	2
チーム医療概論	チーム医療概論	2
関係法規	関係法規	1
応用数学	臨床工学基礎数学	2
	臨床工学応用数学	2
電気工学	電気工学Ⅰ	2
	電気工学Ⅱ	2
	電気工学実験	2
電子工学	電子工学Ⅰ	2
	電子工学Ⅱ	2
	電子工学実験	2
機械工学	臨床工学基礎物理学	2
	医用機械工学	2
計測工学	計測工学	2
医用工学	医療情報統計学	2
	情報処理工学	2
	医用工学Ⅰ	2
	医用工学Ⅱ	2
	医用工学Ⅲ	2
	医療情報処理	2
生体物性工学	生体物性工学	2
医用材料工学	医用材料工学	2
医用機器学概論	医用機器学概論	2
医用治療機器学	医用治療機器学Ⅰ	2
	医用治療機器学Ⅱ	2
	医用治療機器学実習	2

生体計測装置学	生体計測装置学Ⅰ	2
	生体計測装置学Ⅱ	2
	生体計測装置学実習	2
臨床支援技術学	臨床支援技術学	2
生体機能代行技術学	生体機能代行技術学Ⅰ	2
	生体機能代行技術学Ⅱ	2
	生体機能代行技術学Ⅲ	2
	生体機能代行技術学実習Ⅰ	2
	生体機能代行技術学実習Ⅱ	2
	生体機能代行技術学実習Ⅲ	2
医療安全管理学	医療安全管理学	2
	医療安全管理学実習	2
臨床医学総論	臨床医学総論Ⅰ	2
	臨床医学総論Ⅱ	2
	臨床医学総論Ⅲ	2
	臨床医学総論Ⅳ	2
臨床実習	臨床実習事前学修	2
	臨床実習	5
	臨床実習事後学修	1
合計		107

共通科目については以下の条件を含め22単位以上修得していること

- 教養は、14単位以上(人間、社会、文化で合計6単位以上、自然で6単位以上)修得すること。
- 語学は、英語科目を含み4単位以上修得すること。
- データサイエンスについては、2単位以上修得すること。
- ゼミについては、2単位修得すること。

〔別記12〕

履修規則第31条に基づく愛玩動物看護師国家試験の受験資格を取得しようとする者の履修は、次表のとおりとする。以下の科目はすべて修得すること。

動物看護科学コース

科目群	農林水産大臣及び環境大臣が指定する科目名	農林水産大臣及び環境大臣が指定する科目に対応した開講科目の名称	単位数
基礎動物学	生命倫理・動物福祉	動物福祉論	2
	動物形態機能学	動物生理学 I	2
		動物解剖学	2
		生化学	2
		動物繁殖学	遺伝繁殖学
	動物行動学	動物行動学 I	2
		アニマルトレーニング 基礎論	2
		伴侶動物学	2
	動物栄養学	動物基礎栄養学	2
	比較動物学	産業動物と展示動物の基礎	1
実験動物学		1	
野生動物救護学		2	
動物看護関連法規	動物看護関連法規	1	
動物愛護・適正飼養関連法規	動物愛護・適正飼養関連法規	1	
基礎動物看護学	動物看護学概論	動物看護学概論	2
	動物病理学	動物病理学	2
	動物薬理学	動物薬理学	2
	動物感染症学	動物病原微生物学	2
		動物疾病学	2
	公衆衛生学	動物保健衛生学	2
臨床動物看護学	動物内科看護学	動物内科看護学	2
	動物外科看護学	動物外科看護学	2
	動物臨床看護学総論	動物臨床看護学総論	2
	動物臨床看護学各論	動物臨床看護学各論 I	2
		動物臨床看護学各論 II	2
		動物臨床看護学各論 III	2
	動物臨床検査学	動物検体検査学	2
	動物医療コミュニケーション	動物医療コミュニケーション	2
愛護・適正飼養学	愛玩動物学	伴侶動物学	2
	人と動物の関係学	人と動物の関係学	2
	適正飼養指導論	適正飼養指導論	1
	動物生活環境学	動物生活環境学	1
	ペット関連産業概論	ペット産業論	2
実習	動物形態機能学実習	動物形態機能学実習	1
	動物内科看護学実習	動物内科看護学実習	2
	動物外科看護学実習	動物外科看護学実習	1
	動物臨床看護学実習	動物臨床看護学実習	1
	動物臨床検査学実習	動物臨床検査学実習	1
	動物愛護・適正飼養実習	動物看護基礎実習	1
		動物愛護・適正飼養実習	1
動物看護総合実習	動物看護総合実習	2	
合 計			68

動物看護福祉コース

科目群	農林水産大臣及び環境大臣が指定する 科目名	農林水産大臣及び環境大臣が指定する 科目に対応した開講科目の名称	単位数
基礎動物学	生命倫理・動物福祉	生命倫理・動物福祉学	2
	動物形態機能学	動物生理学 I	2
		動物解剖組織学	2
		生化学	2
	動物繁殖学	遺伝繁殖学	2
	動物行動学	動物行動学 I	2
	動物栄養学	動物栄養学 I	2
	比較動物学	産業動物と展示動物の基礎	2
		実験動物学	2
		生態学	2
動物看護関連法規	動物看護関連法規	1	
動物愛護・適正飼養関連法規	動物福祉関連法規	1	
基礎動物看護学	動物看護学概論	動物看護学概論	2
	動物病理学	動物病理学	2
	動物薬理学	動物薬理学	2
	動物感染症学	動物病原微生物学	2
		動物感染症学	2
公衆衛生学	公衆衛生学	2	
臨床動物看護学	動物内科看護学	動物内科看護学	2
	動物外科看護学	動物外科看護学	2
	動物臨床看護学総論	動物臨床看護学総論	2
	動物臨床看護学各論	動物臨床看護学各論 I	2
		動物臨床看護学各論 II	2
		動物臨床看護学各論 III	2
	動物臨床検査学	動物臨床検査学	2
動物医療コミュニケーション	動物医療コミュニケーション	2	
愛護・適正飼養学	愛玩動物学	愛玩動物学	2
	人と動物の関係学	人と動物の関係学	2
	適正飼養指導論	適正飼養指導論	2
	動物生活環境学	動物生活環境学	1
	ペット関連産業概論	ペット関連産業概論	2
実習	動物形態機能学実習	動物形態機能学実習	1
	動物内科看護学実習	動物内科看護学実習	2
	動物臨床検査学実習	動物臨床検査学実習	1
	動物外科看護学実習	動物外科看護学実習	1
	動物臨床看護学実習	動物臨床看護学実習	1
	動物愛護・適正飼養実習	動物看護基礎実習 II	1
		動物福祉実習	2
動物看護総合実習	動物看護総合実習	2	
	合 計		70

〔別記13〕

履修規則第32条に基づく公認心理師課程の履修は、次表のとおりとする。

公認心理師法施行規則第1条の2に定める科目	左記に対応する本学開講科目	単位数	備考
公認心理師の職責	公認心理師の職責	2	
心理学概論	心理学A（心理学概論）	2	
臨床心理学概論	臨床心理学概論	2	
心理学研究法	心理学研究法	2	
心理学統計法	心理統計法	2	
心理学実験	心理学実験	1	
知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	2	
学習・言語心理学	学習・言語心理学	2	
感情・人格心理学	感情・人格心理学	2	
神経・生理心理学	神経・生理心理学	2	
社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	2	
発達心理学	発達心理学（幼）	2	
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2	
心理的アセスメント	心理的アセスメント	2	
心理学的支援法	心理学的支援法	2	
健康・医療心理学	健康・医療心理学	2	
福祉心理学	福祉心理学	2	
教育・学校心理学	教育・学校心理学	2	
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2	
産業・組織心理学	産業・組織心理学	2	
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2	
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	2	
関係行政論	関係行政論	2	
心理演習	心理演習	2	課程履修者のみ履修可能
心理実習	心理実習	2	課程履修者のみ履修可能

履修方法

- ・公認心理師国家試験受験には、所定の単位を全て修得することに加え、卒業後大学院で指定科目を修めて修了または定められた施設で一定期間の実務経験が必要となる。
- ・心理演習及び心理実習履修者は、15名以内とする。
- ・1年次後期に公認心理師課程履修希望者向けのガイダンスを行い、希望者が15名を超える場合は2年次進級時に選抜を実施する。
- ・3年次から公認心理師過程履修希望をする学生がいた場合には、受け入れ可能人数に達していない場合に限り、選抜を実施の上、個別に履修指導を行うことにより、公認心理師課程科目の履修を認める。

選抜方法

- ・1年終了時までには修得した科目の評価点、GPA、面接等によって総合的に選考する。